

雄岡山福祉会「法人内 みてみて保育」実施報告

日時: 令和3年6月23日 9:00~15:00

場所: 鈴蘭台北町こども園

参加者: 溝口(山のまち)、吉田(おっこう山)

目的 ○様々な視点で保育見てもらうことで、保育をふり返り、質の向上につなげる。また、学びを実践につなげる。

ねらい ○法人内の他施設で実地研修に行き、それぞれの園の地域性や環境を活かしながら運営している様子を知る。
○保育で、環境構成や連携の在り方など工夫している点を学んだり、自園のことを発信したりして学び合う。

内容《学び合いの視点》

○乳児クラス

- ・職員同士が連携を取りあい、主体的に保育をすすめていこうとしている姿を客観的にみて、アドバイスがほしい。

○幼児クラス

- ・保育のすすめ方→子どもの主体性を引き出す保育とは
- ・担任同士の連携

研修を終えて《ふり返い》

○乳児クラス

- ・インカムを使うことで、職員の声がとびかいていないのはよかった。
- ・他のコーナーが気にならない環境になっており、壁に向かってあそぶコーナーもあって、落ち着いてあそんでいる。→どのようなねらいをもって環境を準備しているのかを、乳児フロアの職員全体で共通理解していくことが大切。
- ・若手の職員が、自分たちですすめようとしている。リーダー職員の保育や子どもへの関わり方などを見て一緒にすすめていくことで、どんどん学んでほしい。

○幼児クラス

- ・環境を活かして動線を工夫していくことで、子どもたちが主体的に関わる、取り組むことができるのではないかと。(生活・活動の流れに見通しがもてるように)
- ・担当クラス保育者同士が、保育や子どもたちに対するねらいを共有し、役割を意識しながら取り組むことで、もっと保育が深まる、広がるのではないかと。
- ・子どもたちの主体性とは？→子ども一人一人の姿、様子をしっかりとみていき、どんなことに興味・関心があるのか、どんな学びがあるのかを、保育者が見極めていくことが必要。
→それを職員同士が共有していき、保育者の視点もふやしていく。